

施策の内容 (主な施策の紹介)

施策 バス運行情報提供の充実・バス利用環境の改善

◆バス路線や系統のわかりやすさの向上

系統番号表示について、引き続きよりわかりやすい路線・系統や系統番号となるよう、継続的に検討します。



▲LED 式による系統番号と行先表示

◆ICTを活用した運行状況等の提供

スマホ利用者向けのアプリの作成やバスロケーションシステムの導入等、ICTを活用した運行状況の提供について検討します。

◆鉄道およびバスで利用可能なICカードの導入検討

鉄道およびバスで利用可能な共通ICカードの導入に向けた検討を行います。

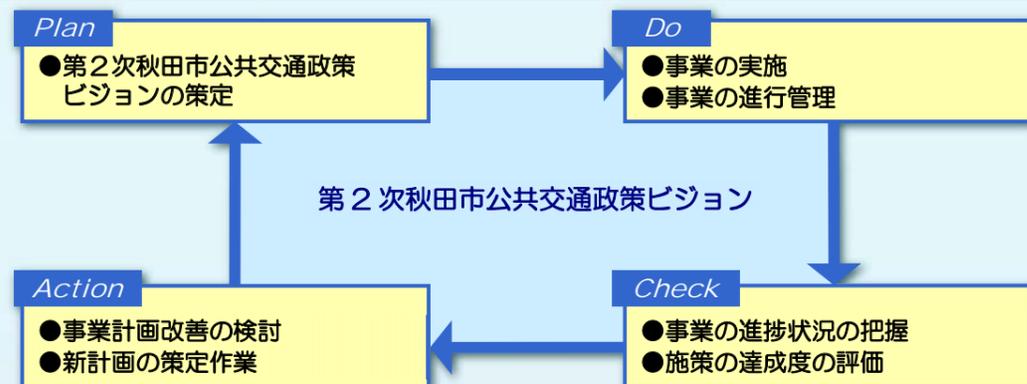


▲新しいバス案内サービス (イメージ)

進行体制と進行管理

第2次秋田市公共交通政策ビジョン (Plan) を策定後、施策の実施・管理 (Do)、評価 (Check)、計画の改善 (Action) の管理・運営の仕組みとそれを実施する体制を確立します。

各施策・事業については毎年進捗状況および成果目標指標の達成度を確認し、その結果にもとづき必要に応じて改善を行います。



第2次秋田市公共交通政策ビジョン (秋田市地域公共交通網形成計画)

まちづくりと一体となった、将来にわたり持続可能な公共交通網の実現



秋田市

第2次秋田市公共交通政策ビジョンの目的

本ビジョンは、超高齢社会を迎え人口減少が進行するなかで、持続可能な多核集約型都市の形成を目指すに当たり、まちづくりとの一体性をもった総合的な公共交通ネットワークについて将来の姿を明らかにするものです。

本市が将来にわたり快適な生活環境を確保していくためには、それぞれの地域中心において生活に必要な機能を集約するとともに、都市機能の集積を有する都心部との連携を支える交通サービスとして、持続可能な公共交通ネットワークの形成を推進する必要があることから、その実現に向けて、市民、交通事業者、行政をはじめ関係者の連携により、限られた資源を有効に活用しながら各地域の特性に応じた交通サービスの確保に取り組むものです。

計画の区域と計画期間

- 計画の区域は、秋田市全域とします。
- 計画期間は、第13次秋田市総合計画と整合を図るため、平成28年度から平成32年度までの5年間とします。

計画の目標

【基本的な方針】

まちづくりと一体となった、将来にわたり持続可能な公共交通網の実現

目標Ⅰ 多核集約型の都市構造を形成する公共交通網の整備

【取組みの視点】

- 目指すべき都市構造から適切な交通結節点を設定し、幹線軸、支線軸、域内交通の明確化を図る。
- 都心部と地域中心間を結ぶ幹線軸におけるバス路線については、少系統多頻度運行で利便性の向上を図り、支線軸については全ての地域住民の移動手段を確保するため、地域特性に応じた適切な運行を行う。
- にぎわいの創出等に資する域内交通の充実を図る。
- 交通結節点における鉄道とバスの連携の強化を図る。

目標Ⅱ 利便性向上、バス路線運営適正化に向けた取組みの推進

【取組みの視点】

- 利用者拡大のため、利便性向上施策や情報提供方法、料金体系・支払方法の改善を行う。
- 広告収入等の増収施策や赤字路線の再編の継続的な検討を行う。
- 市民は公共交通の積極的な利用によりその維持に協力する。

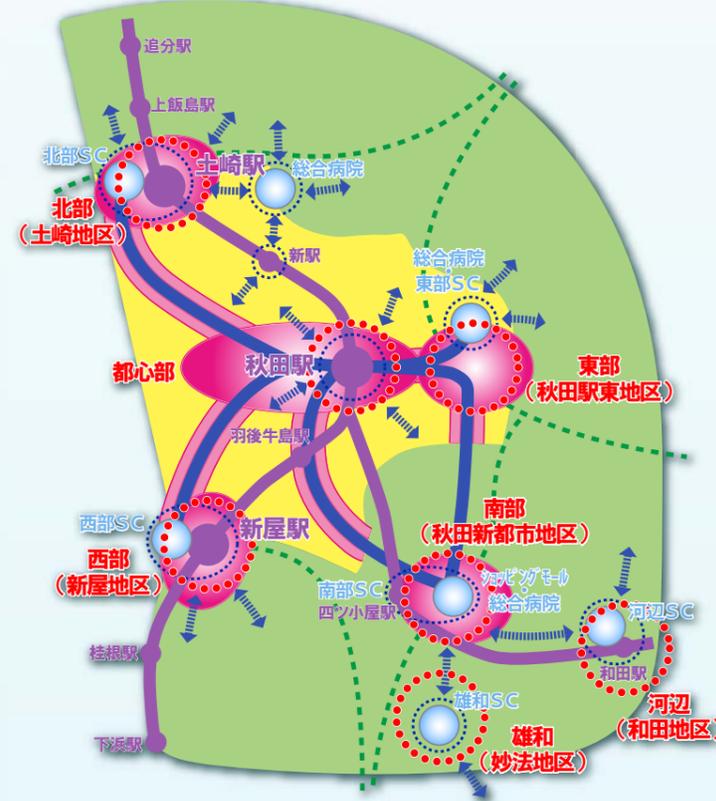
目標Ⅲ 持続可能な公共交通の確保に向けた仕組みづくりの推進

【取組みの視点】

- 行政、交通事業者、地域住民が一体的な検討体制を構築し、地域の実情に応じた対策に取り組む。
- 地域交通を維持するために、住民へ公共交通利用を促す啓発活動を実施する。

施策の内容（主な施策の紹介）

施策 バス路線再編



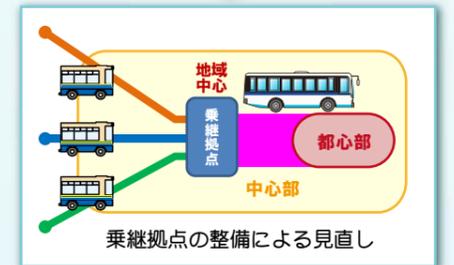
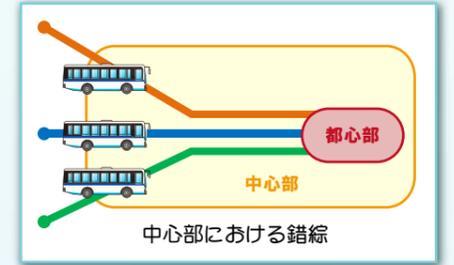
※新駅については検討中
※交通結節点を含めた都市構造について、上位計画等と連携しながら適宜見直すものとします

中心部：「第6次秋田市総合都市計画」の「将来都市構造」における「市街地ゾーン」を基本としています。
地域中心：「第6次秋田市総合都市計画」の「将来都市構造」における「地域中心」を基本としています。

▲現在の交通結節点を基本とした秋田市の目指すべき将来都市像

◆乗継拠点を軸としたバス路線全体の見直し

幹線バス路線と支線バス路線を乗り継ぎにより接続させ、バス路線全体の見直しを図ります。



▲乗継拠点を軸としたバス路線全体の見直しのイメージ

凡例	
中心部	鉄道駅
郊外部	バス乗継拠点
地域中心	交通結節点
地域境界	都心部・地域拠点間(幹線交通)
施設や人口を集約する地域	地域内(支線交通)
	鉄道
	幹線バス路線
	支線バス路線およびマイタウンバス

施策 乗継拠点の整備

◆乗継場所の集約等によるバス乗継拠点の整備

地域中心における鉄道とバス、バス相互の乗継拠点について、集約を含めた乗継の利便性向上について検討します。

◆乗継拠点施設の機能の充実

待合施設について、乗継による負担を減らすための施設整備を行います。

◆円滑な乗り継ぎの確保

幹線バス路線と支線バス路線、およびバスと鉄道の円滑な乗継と負担軽減のために、事業者間でダイヤを調整します。